

令和 7 年度 県立古河中等教育学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	○6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、生徒一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。 ○科学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習活動の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。 ○異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。 ○化学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習活動の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。 ○異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○Σソフィア・プロジェクトと各種教育活動とを連携させ、体験的・探究的学習活動を展開し、科学的思考力や判断力、表現力を養う。 ○6年間の体系的なシラバス作成と学習システムを構築し、生徒一人一人が将来の夢や目標に向かって自主的・主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ○学校行事や部活動、ボランティア活動などを通じて異年齢交流を行い、社会に貢献するリーダーとしての資質を育成する。		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○知的好奇心が豊かで、他者と協働して課題を探索しようという意欲のある児童 ○国際的な諸問題や医学に高い関心をもち、社会貢献への意識が高い児童 ○他者との違いを認め合い、お互いに尊重し合うことができる児童		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
○昨年度、「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合が89.7%であった。各教科のグランドデザイン及び年間指導計画を基に、授業形態の工夫やICTを効果的に活用した、生徒の主体的・探究的な学習活動の継続を図る。		高い学力の育成	①“次代のリーダー”を育てる学校として、6年一貫の学びを考えていく。 ②教員ひとりひとりの授業形態の工夫により、生徒が主体的に学ぶ指導を展開する。 ③生徒を一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや学習支援を行う。 ④教員相互で授業参観や研究協議を行い、授業改善に役立てる。 ⑤生徒による授業評価において、授業満足度の評価平均3.5以上を目標とする。	B
○いじめに対する理解を深めるため、スクールカウンセラーや弁護士を講師に招き、職員研修を複数回行った。生徒から送られるサインに常に敏感に反応し、迅速に対応するよう努めた。また、不登校生徒に対してもスクールカウンセリングを積極的に行うなど、支援を行った。今後も引き続き生徒に寄り添い、支援をしていく。		心の教育の充実	⑥いじめに対する理解を教員自身が深め、生徒を適切に指導・支援する。 ⑦常に生徒の10年後の将来像を思い描き、生徒にはレジリエンスの力を持たせる教育を行う。 ⑧いじめや不登校の支援が必要な生徒の把握に努める。対応には担任・主任・生徒指導部・スクールカウンセラーなどが組織的かつ有機的に対応し、すべての生徒が安心・安全な学校生活が送れるようにする。	B
○高い学力に裏付けられる生きる力を身につけるべく、授業改善に取り組み学習指導に力を入れた。Σソフィア・プロジェクト「古河中等式探究活動」の計画的実施を通して一人一人の目標実現を目指し、古河中等ならではの学習体系を構築する。		特色ある学校づくり	⑨“社会は変えられる”という自信とスキルを身につける。そのために「共感」と「アクション」を大切に探究活動をデザインする。 ⑩Σソフィア・プロジェクト(古河中等式探究活動)を計画的に実施する。 ※Σアカデミア(弛まぬ学ぶ力・自ら学ぶ姿勢の育成) Σコミュニケーション(発信力・論理力の育成) Σサイエンス(科学的思考力の育成)・課題研究(創造力・探究力の育成) ⑪生徒一人一人の目標実現に向けたキャリア教育を行う。	B
○学校全体として超過勤務時間月平均45時間以内をおおむね実施することができている。一方で、超過勤務時間増大となる教員もいる等、偏りが生じている。		ワークライフバランスの充実	⑫情報共有を積極的に行うことで、教育活動の効率化を図る。 ⑬教職員が休暇等を取得しやすい環境をつくることで、各自がライフステージにあった働き方を実現する。	B

評価基準 A：十分に達成できた。 B：概ね達成できた。 C：やや不十分であった。 D：達成できなかった。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	○言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度の育成	○語彙力を向上させるための授業や課題、テスト問題を工夫するとともに、段階的な言語知識の取得の目安を設ける。 ② ○発達段階に応じた新聞等を含めた多方面の読書の広がり、文章を読む習慣の一層の充実を図る。 ② ○6年間を見据えた言語事項、古典学習、小論文などの系統的段階的指導の拡充を図る。 ②	B	B	○語彙力、知識技能の向上につながる言語活動の設定について、継続的に行っていく。 また、Classi 等を活用した、個に応じた課題の設定や基礎力の養成、発展的な学びの促進に取り組む。 ○表現力を高める活動において、発問や課題設定の一層の工夫を図るとともに、I C T を有効的に活用する。 ○各校務部や各年次と情報の共有及び連携体制を強化し、ディベートやビブリオバトル等の生徒の表現力を育成する機会の充実を図る。
	○「話す・聞く」、「書く」を中心とした言語活動を通して、表現力を高める系統的・段階的指導の充実	○積極的に表現活動を取り入れ、表現力を高める。 ② ○自分の意見や考えを他に示し、書いたり、話したり、他者の意見を傾聴したりする場面を横断的に設定する。 ②	B		
	○生徒一人一人の思考力や表現力、判断力を高める、個に応じた学習支援の充実	○段階的にディベートやグループ活動、プレゼンテーション活動を行い、個人の論理的な思考力や表現力、判断力を高める指導を行う。 ①②⑨ ○個人に対する発問や課題設定をより一層工夫し、生徒一人一人が自ら考え、学び、話し合う習慣をつける。 ②⑨⑪	B		
社会 地歴・公民	○主体的な学びに繋がる指導と生徒一人一人の学習到達度に応じた学習指導の充実	○視聴覚教材やデジタル教材を活用し、興味関心を高める。 ④ ○ワークシートや小テストを継続して活用していくとともに、WEB テストを活用し、基礎基本の定着を図る。 ④ ○Classi の学習動画等を活用し、個に応じた学習を行う。 ④	A	B	○ICT 教材の活用状況と学習効果を確認し、効果的な活用の仕方を検討していく。 ○前期課程での指導を工夫し、書く能力や資料活用の技能、思考力を高めていく。 ○キャリア形成につながるよう外部機関の活用の仕方を検討する。
	○社会的な資料活用能力を高める指導の工夫	○地図や年表、統計グラフなどの資料を多面的、多角的に読み取らせ、社会的な資料活用能力を育成する。 ④	B		
	○社会的な思考力、判断力、表現力を図る指導の工夫	○社会的事象に対する自分の考えや意見をまとめさせる機会において、思考・判断・表現する力を高める指導をより一層工夫する。 ④ ○社会的事象に対する自分の考えや意見を実生活に結び付け、キャリアの形成につなげることができるよう指導を工夫する。 ①④	B		
数学	○学習意欲を高めるための指導の工夫	○I C T を積極的に活用し、数学的活動を通して数学的な思考力・判断力・表現力を身に付け、原理や法則についての理解を深める。 ④ ○学習形態や授業展開を工夫することで、生徒が主体的・探究的に学習に取り組む態度を育んだり、協働的に学ぶ意義を感じられたりできるようにする。 ④	B	B	○教員が ICT 機器を使用して教科書の提示などをして、授業を行うことができていた。 次年度は、生徒が GeoGebra などのソフトウェアの利用を通して主体的に学習に取り組めるようにしていきたい。 ○定期テストだけでなく、単元テストや小テストなどを通して基礎的・基本的な内容の理解が深まるような手立てを行うことができた。引き続き、Classi なども活用しながら知識・理解を深められるようにしていく。
	○基礎基本の定着を図るとともに応用力の育成を図る指導の工夫	○Classi や小テスト、単元テストを通して基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、より発展的な学習内容を取り扱い、難関大学受験に対応できる高い学習能力の育成を図る。 ④	A		
	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、習熟度別少人数授業やチーム・ティーチング等の授業形態を工夫するとともに、Classi 等の I C T 教材を活用して個に応じた課題の設定や補習を行い、学力の定着と向上を図る。 ④⑪	B		

理科	○自然の事物・事象に自ら進んで関わる態度の育成	○学習計画を活用して、見通しをもって授業に取り組ませるとともに、一人一人の生徒の疑問や気づきを取り上げ、日々の授業に生かす。①②③ ○SDGsなどで最新の科学の話題を提供し、生徒の興味・関心を高める。①④ ○校外外での体験的な活動や実験・観察を計画・実施する。④⑨⑩	B	B	○アクティブ・ラーニング型の授業形態の工夫やICT等の活用、実験によって、生徒がより自主的・主体的に取り組む学習指導及び思考力・判断力・表現力の育成を重視した学習指導を充実させる。 ○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じた学習活動の工夫や学習支援を充実させる。
	○科学的に探究する力の育成と学習到達度（個）に応じた学習指導の充実	○基礎基本の定着のための課題提示や小テスト等を継続的に行う。②③⑤ ○実験・観察の授業展開における予想・考察の場面において、アクティブ・ラーニング型の授業形態を積極的に取り入れ科学的な思考力・表現力の育成を図る。④⑨ ○ICTを積極的に活用し、個に応じた学力の育成に十分配慮した学習活動の工夫と支援を図る。④⑩ ○実験器具等の充実を図り、実験を多く取り入れた授業を積極的に行う。④	B		
音楽	○個に応じた学習支援の充実と表現意欲及び表現力の育成	○ワークシートの活用や実技チェックを通して、生徒が目標を明確に把握しながら音楽表現の技能や表現力を高めていけるよう指導する。③ ○個別指導を充実させ、生徒一人一人の現状に合った課題を提示しながら、実感を伴った知識・技能の習得を目指す。③	B	B	○生徒の実態を把握するための理解度チェックや実技チェックの機会を増やし、達成度の把握に努める他、個に応じた指導の充実を図る。 ○ペアやグループ活動の方法を見直し、生徒同士の学び合う機会の充実を図るなど、主体的で探究的な深い学びの実現を目指す。 ○「伝統音楽」や「世界の音楽」等において、体験的学習を取り入れ、指導の充実を図る。
	○他者と協働しながら主体的に学習に取り組む態度の育成	○アンサンブルや合唱等の活動において、他者と交流しながら主体的に音楽表現を生み出していけるよう指導する。② ○ペア学習やグループ活動を多く取り入れ、助言と修正のサイクルを体験しながら音楽表現を創意工夫する力を養う。②	B		
	○音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成	○我が国の伝統音楽や世界の様々な音楽に触れ、文化的・歴史的背景に目を向けながら音楽の良さや美しさを味わえるよう指導する。③	B		
美術	○個に応じた学習支援と主体的な授業の工夫	○前期課程において、基本的な道具の扱い方や技法を習得させ、自らの表現に生かせるような題材設定を行う。また、後期課程ではより実践的な内容を扱い、専門的な知識や技術の習得を図る。④⑩ ○生徒相互の学び合いの活動を通して、生徒が自主的・主体的に制作活動や他の作品の鑑賞を行い、様々な分野における発想・構想の能力の向上を図る。④⑩	B	B	○学校行事を見据えながら授業展開を工夫し、美術展覧会や応募作品に向けて計画的に作品制作を進めさせる。 ○題材ごとに作品鑑賞の時間を設定し、相互に完成作品を鑑賞し合うことで作品制作への意識をさらに向上させる。
	○自然美や美術作品の理解・見方を広げ、美術文化を味わう鑑賞の能力の育成	○美術作品の制作活動と鑑賞を通して、美術文化への興味・関心を高めるとともに、形や色彩、材料、光などの性質や作者の感情、作品の内容を読み取り、鑑賞能力を高める。④	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健体育	○言語活動の充実	○実技の活動時間を確保し、生徒同士が協力して、主体的・対話的な授業の実践を効果的にできるように助言する。 ② ○学習カードを活用し、対話のある活動を工夫する。 ③	A	B	○体力テストのデータ分析として、ALPHA SCHOOL を使用したが、継続的な取り組みができなかった。 ○生徒同士で主体的な活動ができていた。各単元で学習カードを用いて、目標や振り返りを行うことができた。 ○保健学習だけでなく、実技の単元で ICT を効果的に使用していきたい。
	○個に応じた支援を通じた、自ら体力を高める授業の展開	○基本的な生活習慣を定着させるとともに、体力テストの結果から自己分析を行い、各年次・発達段階や性差、個人差を踏まえた主体的に取り組める基礎体力向上のための補強運動や練習方法の指導を行う。 ③	B		
	○適切な意思決定を行うための能力を育てる保健学習の展開	○様々な健康問題について、ICTを活用したペアワークやグループ学習を取り入れ、自分の将来を見据えた、適切な意思決定につながる思考力や判断力の向上を図る。 ②③	B		
技術・家庭	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや支援を行う。 ⑪	B	B	○生徒の学習到達度に差があり、個に応じたアドバイスや支援を充実させる必要がある。 ○生成 AI や IoT といった新たな技術が生まれているため、それを適切に活用していけるように授業でどう扱うかを考えていく必要がある。
	○課題を解決する力を高める工夫	○実践的・体験的な活動を通して習得した知識及び技能が、生活の自立につながるように活動を組み立てていく。 ④⑤ ○ICTの使用方法だけでなく、デジタルシチズンシップについての学習も他教科と連携を図りながら進めていく。 ④⑤	A		
	○生活や社会とのかかわりを深める指導の工夫	○授業の導入や終末で、学んだ技術や知識の生活への活用を考えさせることで、教科の見方・考え方を働かせられるように支援する。 ④ ○新しい技術の発達や環境とのかかわりに目を向け、持続可能な社会の実現を意識した指導計画や題材を工夫する。 ⑤	B		
外国語(英語)	○4技能をバランスよく育成する授業の工夫	○1時間の授業や単元を通して、4技能がバランスよく育成できるように、ウォームアップやコミュニケーション活動を工夫する。 ② ○アウトプット(ライティング・スピーキング)を意識したインプット(リスニング・リーディング)を意図的・継続的に行う。 ②	B	B	○生徒の英語学習に対するモチベーションを維持向上させる。 ○日々の授業をマンネリ化させない。 ○文法力と語彙力の継続的な養成。 ○6年間を見通した指導を行う。 ○相互授業参観や定期的な教科会の実施を行い、情報共有や指導目標の再確認を行う。
	○表現力・論理的思考力の育成	○文章全体の論旨を読み取ったり、聞き取ったりすることを意識した活動を計画的に行い、論理的に考えたり表現したりできる生徒の育成を目指す。 ② ○スピーキングやライティングの系統的・段階的指導を体系立てて行うべく、年次間の情報共有に努める。 ② ○授業、課題、テストにおいて英作文や自己表現作文、パフォーマンステストなど、表現力の育成につながる題材を積極的に取り入れる。 ②	B		
	○個に応じた学習支援の充実と異文化理解	○Classi の活用、小テストや週末課題等を継続的に実施し、基礎・基本の確実な定着と生徒一人一人の学習到達度に合わせた学習指導の充実を図る。 ②③ ○1年次から5年次まで行われる各語学研修を系統立てて実施し、異文化に積極的に触れ、理解しようとする態度の育成を図る。 ②③ ○ICT機器を活用した授業の研究・実践を行い、生徒の理解と表現の能力を伸ばす指導につなげる。 ②③	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
家庭	○基本的な知識や技術を身に付けさせる指導の工夫	○感染症予防に努めつつ、年間計画の実習等を柔軟に変更できるように対応しながら、各学習内容を進めていく。④ ○消費者教育では、専門的な知識を深めるため、ゲストティーチャーによる講演等の実施を検討する。④⑤	A	A	○習得した知識がどのように生活で生かされているかを考えるきっかけとなるため、ゲストティーチャーの活用を引き続き行っていく。 ○家族や地域との関わり方についての関心のもたせ方を工夫し、学んだことを実際の生活で生かす力を育てていく。
	○日常生活と社会とのつながりを結びつける授業の展開	○現在と未来の自分の立場に立って気持ちを考えさせ、家族や地域との関わりについて関心をもたせるなど、学んだことを実際の生活の中で生かすことができる力を育てる。④⑤	A		
	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや支援を行う。⑩	B		
情報	○基本的な知識や情報モラルの習得に向けた指導の工夫	○情報教育における「情報を収集する活動」や「情報を判断する活動」、「インターネットの特徴や仕組みを理解する活動」、「情報モラルの必要性や情報に対する責任について考える活動」などを通して、基礎知識や情報モラルの習得を図る。②③⑦	A	B	○表計算ソフトを用いたデータサイエンスの演習やPYTHONを用いたプログラミングにさらに注力し、情報リテラシーのさらなる向上を目指したい。また情報モラル教育だけではなく、ニクラウス・ルーマン等の先端の社会学についても触れる機会を多分に設けたいと思う。
	○情報化社会の諸課題を主体的に解決し、創造的な能力と実践的な態度の育成	○情報化社会の諸課題について、グループで課題を提起し合い、ブレインストーミング法などを利用し問題解決を図ることで、より実践的な能力を育成する。①④③⑦	B		
	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや支援を行う。③⑦	B		
学校設定 教科・ 科目 総合・ *Σリ サーチ	○課題発見・情報活用能力の育成	○身のまわりの様々な事象や学術的な研究成果に目を向け、自らの課題テーマを見つける。また、それに関連する情報を集め、基礎的知識を身に付ける。①③	B	B	○コース別の探究活動を開始し、各分野の特性に合わせて進行させていくとともに、課題の設定や研究の進め方について外部機関や専門家等からの支援・指導を受けながら、生徒が活動に積極的に取り組めるような態勢を整える。
	○課題解決能力の育成	○設定した課題を解決するために、具体的な研究計画を立てることを通して、論理的な思考と手法及びICTを活用した表現力等を身に付ける。①③④	C		
	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや支援を行う。①③⑨⑩⑪	B		
プロジェクト推進部	○実践的な探究活動の計画・実行と学習成果を外部へ発信する力の育成	○「共感」と「アクション」を踏まえた実践的な探究活動を計画・実行するとともに、地域交流や外部コンクールの応募等を通じて、地域や社会へ向けて学習成果を発信する力を育成する。①④⑨⑩⑪⑫	B	B	○Σソフィア・プロジェクトの業務整理や委員会廃止を含め、体制の見直しや関連行事の精選を進め、業務全体をプロジェクト推進部で遂行する。
	○Σソフィア・プロジェクトの推進	○Σアカデミア(弛まぬ学ぶ力・自ら学ぶ姿勢の育成)、Σコミュニケーション(発信力・論理力の育成)、Σサイエンス(科学的思考力の育成)、課題研究(創造力・探究力の育成)の各委員会と校務部や年次が連携して、Σソフィア・プロジェクト(古河中等式探究活動)を計画的に実施する。①④⑧⑨⑩⑪⑫	B		
教務部	○自主的・主体的な学習、探究的な学習の確立	○アクティブ・ラーニング型の授業やICTを活用した授業のより効果的な手法の研究と実践、及び少人数指導やチーム・ティーチングなど生徒の実態や授業内容に応じた授業形態の工夫により、よりきめ細かな学習指導の充実を図る。①②③④ ○生徒の学習到達度に応じた学習支援の充実を図るため、SUTの時間やICT教材等の効果的な利用を推進する。①②③④	B		○少人数授業やチーム・ティーチングなどの授業形態のさらなる工夫を模索する。 ○ICT教材等を利用し、個に応じた学習支援をさらに充実させる。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務部	○広報活動の充実	○学校案内等の作成・配付による学校紹介の充実を図る。 ①⑤⑨⑩	B	B	○学校案内等の配付先を再検討し、より効果的な広報活動を展開する。 ○学校説明会や学校公開の内容と時間配分、動線など参加する小学生の立場に立って綿密に計画し、さらに効果的な実施へとつなげる。 ○クラス編成や授業形態に応じた校務支援システムの運用を適宜行えるよう努める。 ○すべての授業担当者が I C T 機器を潤滑に利用できるよう共通理解を図る。 ○学校運営交流会の開催について今年度の実施を振り返り、より充実したものを開催できるよう計画する。 ○専門委員会活動のさらなる充実と活性化を図る。 ○教科や年次と連携し、授業や探究活動、ホームルーム活動での図書館の利用促進を図る。 ○図書館行事や館内の展示等、利用しやすく親しみやすい図書館の整備に努め、生徒の積極的な読書習慣を養う。 ○図書委員会活動を活性化し、図書館の環境整備や行事の企画運営に対して、図書委員が主体的かつ積極的に活動できるよう支援する。
		○本校の特色ある教育活動及び教育活動全般について、ホームページや各種たより等で保護者や地域の方々に順次発信する。 ①⑤⑨⑩ ○広報活動の対象者や活動内容、日程等を再度見直し、より一層戦略的、効果的な学校説明会や学校公開等の実施を図る。 ①⑤⑨⑩			
	○校務支援システムの利用環境整備	○校務支援システムに関わる作業の校内マニュアルを作成し、利用環境の整備に努める。 ⑫⑬	A		
	○ I C T 環境整備とコンピュータ教室の管理	○ I C T 機器の台帳を整備し、授業での活用に向けて周辺機器の整備を行う。 ⑫ ○コンピュータ教室の定期メンテナンスを行う。 ②③	A		
	○教科指導や校務における I C T 活用の推進	○校務における I C T の利用ルールの策定と教員間の共通理解を強化する。 ④⑫	B		
	○ P T A 組織のあり方の検討	○各年次後援会等と連携し、P T A 総会、本部役員会、専門委員会等で今後の課題・展望について意見を集約し、P T A 活動の活性化を図る。 ①	A		
	○専門委員会活動の活性化	○事業推進・危機管理・研修・教育支援の各委員会活動を活性化させ、学校行事での協力、保護者向け研修活動などの充実を図る。 ①	A		
	○図書資料の拡充と図書館利用の促進	○蔵書構成の適正化を図り、「読書センター」としての機能の充実を図る。 ①⑨⑪ ○教科や探究活動に資する資料を積極的に拡充し、「学習・情報センター」としての機能を目指す。 ①⑨⑩ ○図書希望調査やリクエストカードを利用し、生徒や教職員の希望に応えられるようにする。 ①②③ ○新入生図書館オリエンテーションを通して、図書館利用への理解を促進する。 ①③ ○図書館の企画展示や行事を通して、生徒の図書館利用を促す。 ①⑨	A		
	○読書習慣の涵養	○各年次や各教科との連携を図り、生徒各人が積極的に読書しようとする態度を育成する。 ①②③⑪	B		
	○図書委員会の活動の活性化	○図書館の行事や館内環境整備、図書館だよりや図書館報の編集等、生徒が積極的動けるよう、委員会を支援する。 ①⑨⑩	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒支援部	○交通安全教育、マナー教育の充実	○生徒自身が現状を分析し、課題を生み出していけるような活動の場を設定 することにより、生徒の規範意識を高める。 ⑤ ○携帯電話やインターネットの正しい利用法とネット犯罪からの自己防衛の思索を促す。 ⑤	B	○登下校支援を定着させ、挨拶指導および服装指導の充実を図る。 ○生徒支援に関わる定期的な情報交換会を設定するなど、共通理解・情報の共有化を図るための指導体制の整備に努める。 ○情報機器利用に関するマナーや規範意識の向上を図る。 ○不登校生徒に対する組織的な対応の継続、関係諸機関との効果的連携を図る。 ○学校環境衛生及び学校安全管理の維持向上を図るためのはたらきかけを充実させる。 ○担任等との相談を組織的・計画的に実施し、生徒の心身の健康問題に対する支援を積極的に行う。
	○教育相談体制の充実	○生徒一人ひとりの悩みに真摯に向き合い、年次や学校が丸となった組織的な対応に努める。 ⑥ ○生徒と教員、教員と保護者の信頼関係の構築を目指すとともに、関係機関やスクールカウンセラーとの連携を密にし、不登校の早期対応及び問題行動の未然防止に努める。 ⑥	B	
	○学校環境衛生の維持向上	○感染予防対策（体調管理チェック・施設設備の消毒・三密回避など）を継続し、安全な学校環境の保持に努める。 ⑦ ○各種定期健康診断や日常の健康観察や健康相談により、心身の健康問題を有する生徒の早期発見と事後指導による改善に努める。 ⑤⑥⑦	B	
	○学校安全管理の維持向上	○学校環境衛生の検査や管理を適切に行い、その維持改善を図る。 ⑦ ○生徒の発達段階に応じた安全対策・安全教育を計画的に行い、危機管理・安全能力の育成を図る。 ⑦ ○安全点検などを計画的に行い、安全な学校環境の維持向上および改善を図る。 ⑦	B	
進路支援部	○キャリアプランニング能力の育成	○生徒が主体的に将来のキャリアを考察・設計できるよう、多様なキャリアワークを取り入れた活動や授業を開発・実践する。 ①②⑪ ○6年間の系統的指導の中で、キャリアプランニング能力の育成に努める。 ①⑪	B	○年次間の連携や各行事やプロジェクトとのつながりを強化するとともに、6年間の系統的指導の中で行事等を見直し、位置づけを共有する。 ○しっかりと目的意識を持って参加できる状態になるよう、土曜講座を含め、各進路行事や模擬試験の意義を生徒に伝え、意識づけを行う。 ○各模擬試験や検査の結果を分析し、面談だけでなく、普段の授業や学活・HRなどでも更に活用する。 ○学習習慣を定着させるための働きかけを行う。
	○課題発見・課題解決能力の伸長	○探究活動を核とした実践的な学びを通して、生徒が将来に繋がる体験・経験を体系的に獲得する中で、基礎的・汎用的能力を育成する。 ①⑦⑨⑪ ○外部模試、各種検査、体験学習、学校行事等の振り返りの質と頻度を高め、生徒の課題発見・解決能力を効果的に伸長させる。 ①③⑦⑪	B	
	○系統的キャリア教育の実施と支援体制の確立	○研修会を行い、分析力の向上や授業改善につなげるとともに、分析結果や各種調査の情報を共有することで体系的な指導へとつなげる。 ②③⑪ ○模試分析、ポートフォリオ、個別面談等を効果的に活用し、生徒一人ひとりの現状を的確に把握するとともに、潜在的な可能性を引き出し、キャリア意識の醸成と進路希望の実現に向けた包括的な支援体制を構築する。 ④⑥⑨⑪	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
特別活動部	○学校行事の目標を実現するための指導の充実	○生徒会、実行委員会、ホームルーム委員長を各種行事の企画・運営の中心とし、生徒の自主的・自発的な活動を促す。①⑨ ○年次単位の行事も含め、各種行事を通して人間性や社会性の育成を図る。①⑨	A	B	○各行事や生徒会・委員会活動、部活動において、生徒の主体的な活動の場となるよう教員の積極的な関わりを促す。 ○各行事の負担軽減を前提とした検討を行う。 ○けやき祭・体育祭の開催の日程・内容の検討。 ○表彰式の形式の検討。 ○キャリア・パスポートの活用について、効果的な教育活動となるよう、工夫・改善を図り、学校全体での共通理解を図る。
	○よりよい人間関係を築く力、道徳的実践の指導の充実	○人間性や社会性の育成を図るために、感染症対策を考慮し、地域や各機関と連携して自然体験活動や社会奉仕体験活動等の計画を行う。①⑨⑩	B		
	○豊かな人間性、社会性を身に付けるための集団活動の充実	○豊かな人間性や社会性を育むために、生徒会活動、部活動、委員会及び係活動の活発な活動を支援する。①⑨ ○各教科と連携しながら文化的体験活動等の積極的な推進を図る。①⑨	A		
	○効果的なキャリア教育の実現	○生徒や地域の実態にあわせてキャリア・パスポートを作成し、活用を促すことによって効果的なキャリア教育を行う。⑨⑩	B		
事務部	○予算の効率的な執行を図る	○予算要求計画書等による計画的かつ効率的な予算執行及び編成の実施。②⑪⑫ ○予算執行に係る教職員との共通理解を図る。②⑫	B	B	○予算については、要望書に基づき計画的かつ効率的に執行することができた。しかし特定費目の執行において教職員との共通理解を図る事が難しく課題が残った。 ○法令遵守による会計事務手続きを行う事はできた。しかし電子起案について利用が低く、事務簡素化には至らなかった。 ○校舎内外の環境整備・保全については、計画的に実施することができた。
	○法令遵守による事務手続き	○地方自治法、地方自治法施行令、茨城県財務規則等を遵守した会計事務の手続きを行う⑫ ○電子起案を活用した事務簡素化の推奨⑫	B		
	○教育環境の整備を図る	○年間計画による樹木剪定や除草作業等の環境美化を図る。⑫ ○定期的に校舎保全のための校内外巡視を行う。⑫	A		
第1年次	○基礎的な生活習慣の確立と自主的・自立的な態度の育成	○あいさつや時間遵守、礼儀やマナーについて、年次集会やホームルーム等で適宜指導を行い、本校生としての基礎的な生活習慣の確立を図る。⑧ ○ホームルーム委員や各委員会活動、係活動を充実させるとともに、学級活動の時間を充実させ、生徒が主体的に取り組めるような行事を企画し、自主的・自立的な態度を育成する。①	B	B	○生徒の普段の様子を見ていると、あいさつや時間遵守については、継続して声掛けや指導をしていく必要があると感じられる。また、提出物の期限や行事に関して自己管理ができていない生徒の姿も見られたため、自己管理能力を高められるような手立てが必要である。 ○Classi を活用して学習時間の管理をしている生徒の姿も見られたので、称賛しながら、このような生徒が増えるように支援していきたい。 ○職場見学などのキャリア教育を通して、生徒の職業観や目標設定について機会を設けられたので、引き続き、職業観をもてるように支援していきたい。
	○学習到達度（個）に応じた学習支援の充実	○授業に真剣に取り組ませるとともに、Classi 等を活用しながら、生徒の実態に合ったホームワークの内容を精選し、学習習慣の定着を図る。②③ ○SUTの時間を活用し、学習に関する個別面談や学習支援を実施し、生徒の学力向上に努める。③⑧	B		
	○視野を広くもち、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○面談を定期的実施し、生徒が安心して生活し、目標に向かって努力することのできる環境づくりに努める。⑦⑧ ○Σ ソフィア・プロジェクトの実践や進路学習等を通して、自分なりの目標を確認させ、その実現に向けて努力する態度を育成する。①⑩⑪	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第2年次	○個に応じた学習支援を通した、確かな学力とより高い適応能力の育成	○SUTを活用し、学習に関する個別相談や学習支援等を行い、学習意欲と学力向上に努める。③ ○家庭学習の定着を図るため、Classi等を活用し日々の学習時間を管理するとともに、ホームワークの内容の工夫に努める。①③ ○国内語学研修や研究所訪問、各教科の学習を通して、様々な分野への関心を高めるとともに、他者との関わりの中で社会に適応できる力（コミュニケーション能力・創造力・表現力等）を培う。①②④⑤⑩	B		○SUTにおけるステップアップテストの実施回数を増やしていきたい。 ○Classiの自走化や学力推移調査のGTZ向上に向けて、朝読書の時間を活用し、課題配信の機会を増やしたい。 ○自分から進んで行動することができる姿勢を育むために、SHRや日常生活を通して望ましい姿を称賛する。
	○多くの体験活動を通した豊かな心の育成と自主的、自立的に行動する態度の育成	○学級活動や年次活動において、生徒一人一人が役割を認識し、自ら判断し行動する態度を育成する。⑥⑦⑧⑨ ○年次行事や他年次との交流会など、生徒による主体的な行事の企画・運営を推進し、企画力や実行力を培う。⑥⑦⑧⑨	B	B	○ホームルーム委員や清掃班班長など、当番・係活動等のリーダーをもう少し育てていきたい。チェック体制を整備したり、話し合う機会を設けたりする。
	○課題発見能力や自己管理能力の伸長と、夢や目標の実現に向けて努力をする態度の育成	○Σソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、課題解決に向けての支援に努める。⑩ ○キャリア教育を充実させ、将来の夢や目標を常に意識した学習への取り組みができるよう支援する。⑪	B		○行事のときに高まった気持ちを、日常で継続できるようにするための仕掛けとして、みらいパスジュニアの指標をワークシート等に示す。
第3年次	○豊かな人間力の育成と学習到達度（個）に応じた学習支援の充実	○基礎学力の定着のために「バーチャル高校入試」で、具体的な目標の設定と学習到達度の自己把握を計画的に行い、個別指導の充実と学力の向上を図る。③ ○後期課程への移行を見据え、学力別の少人数集団を形成し、SUT等の時間を利用して生徒の実態に合った補習を行うことで、学力のさらなる向上を図る。③ ○道徳の授業を充実させ、生徒一人ひとりが自分自身の心を見つめ、人間としての生き方を考えられるように支援する。⑥ ○Σソフィア・プロジェクト関連行事を通して、社会に適応できる力（コミュニケーション能力、創造力、実行力、発信力等）を身につけ、豊かな人間性を育む。⑩	B		○「バーチャル高校入試」を通して確認できた生徒それぞれの今後の課題を今後の学習に生かせるように、学習習慣の確立や授業展開、補習等の工夫に努める。 ○道徳の授業で学んだことを、実生活に反映できるように、教科書に併せて体験的な活動やロールプレイングを取り入れるなど、指導方法を工夫する。
	○自主的、自立的に行動する態度の育成	○総合的な学習の時間において、「地域貢献」をテーマにし、自ら考え、自ら行動できるような積極性を育む。⑨ ○前期課程最高年次としての自覚をもち、行事等におけるリーダーシップを発揮するとともに、主体的な活動や行事等の企画・運営を推進する。①	B	B	○生徒が主体となって活動する場面や行事などを設定し、リーダーを中心に実行する機会を増やしていく。多くの経験を通して、企画力や運営力を向上できるように支援する。
	○後期課程に向けた進路選択の準備と目標の設定	○大学の模擬授業体験や適性検査（みらいPASSジュニア）を通して後期課程に向けた具体的な進路選択への意識高揚を図る。⑩ ○Σソフィア・プロジェクト関連行事など体験活動に取り組むことで、様々な分野への探究心を高め、将来の職業選択を見据えた具体的な目標設定の支援に努める。①⑩⑪	B		○総合的な学習の時間で生徒が学んだ、プロジェクト遂行のためのプロセスを次年度からの探究の時間でも生かせるように、教員の共通理解を深め、個別の指導に生かす。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第4年次	○個に応じた学習支援を通した、確かな学力と豊かな人間力の育成	○普段の授業を大切に、学習に積極的に取り組むとともに、各種テストの分析を行い、個別指導の充実を図る。 ①②③④⑤ ○学校生活の中で、社会に適応できる力や責任ある行動をとり、後期生としての自覚(自律・自立・責任)を意識できるように努める。 ②⑥⑦	B	B	○Σリサーチと探究が今年から大幅に変更があり、年次で業者の打ち合わせを行い急遽計画を立てて実施した。4月段階で年間計画が必要である。校外学習場所も業者は何もせず、全てこちらで手配したため、次年度についても検討が必要である。学習時間の改善、生徒自身によるスケジュール管理、生徒間の人間関係のトラブルが多かった。
	○自主的、自立的に行動する態度の育成	○学校生活・社会生活のあらゆる場面で、自ら判断し自ら行動することを意識できるように支援する。 ①②⑦ ○学校・学級の一員であることを意識し、生徒による主体的な活動や、様々な学校行事の企画・運営を推進する。 ⑥⑦⑧	B		
	○具体的な進路選択の準備と、後期課程における目標の設定	○進路講演会や、後期課程での課題研究・体験学習を行うことにより、進路選択への意識を高め、文型・理型の選択に生かす。 ⑨⑩⑪ ○Σソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、将来や進路における目標設定の支援に努める。 ⑨⑩⑪	A		
第5年次	○学力の向上と、発展的な学習姿勢の確立	○授業の質を高め、生徒自らが主体的に学習に取り組む姿勢を育むとともに、特に英・数における習熟度授業での成果を上げる。また、各種テストの分析を図り、学力向上に努める。 ①②③④⑤ ○探究活動への計画的、主体的な取り組みや、土曜講座、各種公開講座等への積極的な参加を通して、授業で学んだことをさらに発展させ、教科にとらわれない総合的な学力の向上を目指す。 ①⑨⑩ ○修学旅行では、現地での自主的な学びを促進する態度の育成に努める。 ①⑨	B	B	○探究活動の成果や、土曜講座等で身に付けた学びへの好奇心や意欲を、多様な進路実現に反映していけるように、相談体制や進路支援の充実にも努める。 ○早い時期から上級学校への志望の理由を明確にすることで、必要な学習や行動を考えながら主体的に学習に取り組む姿勢や、入試本番まで根気強く学習を継続する力を育む。 ○校内外の様々な行事や大会等への積極的な参加を促し、学校の中心的役割を担うことで精神的な充足感・達成感が得られるような支援を行う。 ○学習習慣の定着具合には個人差がある。最終学年に向けて、受験への意識向上に努め、計画的に学習を進めることの重要性を改めて呼びかけていく。個々の進路目標や学習状況を踏まえたうえで、個に寄り添った支援をしていくことが必要である。また、大学入試情報や動向を収集し、生徒や保護者との情報共有に努めつつ、生徒が自分自身で目標の達成に向けて努力するための方策を工夫していく。
	○豊かな人間性と積極的に行動する態度の育成	○様々な学校行事を通して、6年次と共に学校全体を牽引する態度を育てる。 ①⑧⑨ ○委員会・部活動においても、学校のリーダーとして積極的に行動できるようにする。 ①⑥⑦⑨ ○個人研究を通して、課題解決の方策を提言する発想力やプレゼンテーション能力の育成を図り、これからの社会人に必要な「生きる力」を身に付ける。 ⑨⑩	B		
	○具体的な進路選択の準備と、目標の設定	○面談を通して、生徒が自分自身の力を把握し、目標を実現するための方法を考えさせるようにする。 ③⑦⑨ ○課せられた課題等を克服する手段を構築できるようにする。 ⑨⑪ ○オープンキャンパス等への参加を積極的に行い、進路目標の設定を行う。 ⑪ ○模試の振り返りや大学別研究会等を通して、生徒一人一人が自己の学習到達度を把握できるよう、個に応じたアドバイスや学習支援を行う。 ③⑪	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第6年次	○学力の向上と、探究的な学習姿勢の確立	○学習到達度に応じた授業や課題を工夫し、学習に積極的に取り組む姿勢を育むとともに、校内及び外部模試の分析と個別指導を実施し、学力向上に努める。①④ ○自身の進路希望と併せ、探究的な学習を奨励し、生徒がより自主的・主体的に取り組む学習環境、及び思考力・判断力・表現力の育成を重視した学習環境の整備を行う。④	B	○学習面では、上位層と下位層に対する指導の工夫がより一層必要になってきている。自ら学習課題を見出し計画的に取り組む意欲的な態度の育成や学習環境の整備に継続して取り組む。 ○学校行事等において、リーダーシップを発揮する機会の充実を図るとともに、社会に適応できる力の育成を図る。 ○生徒一人一人の進路実現に向けた面談を継続的に進める。 ○Σ ソフィア・プロジェクトの活動で身に付けた力を進路学習の取り組みに活かせるように支援の充実を図る。
	○豊かな人間性と自主的・自立的に行動する態度の育成	○学校行事等のプロジェクトで中心的な立場となり、同時に下級生への指導もできる人材を育て、社会に適応できる力（コミュニケーション能力、創造力、社会性、実行力、発信力等）を育む。①④	A	
	○先を見通した具体的な進路選択の準備と、結実期における目標の設定	○面談を積極的に行い、進路に関する多様な体験活動や探究活動を進め、将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図る。①⑤⑥ ○Σ ソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、最終年次における進路実現への支援に努める。①	B	